

FYY80031 (単体・連結部用)
FYY80032 (単体・連結端用通電穴付)
FYY80035 (単体・連結端用電源線<5芯>付)

●器具の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

施工説明 工事店様へ、この説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。

安全に関するご注意



警告

	適合灯具品番	固定出力型器具用 (LT)		
		単体・連結部用 (電源線付)	単体・連結端用 (通電穴付)	連結部用
LED器具	FYY56020J FYY56024J (単体用)	FYY80035	FYY80032	—
	FYY56021J FYY56025J (連結端電源用)		—	FYY80031
	FYY56022J FYY56026J (連結中用)	—	—	
	FYY56023J FYY56027J (連結端電源用)	—	FYY80032	

●施工は、施工説明にしたがい確実に施工を行う。施工に不備があると、落下・感電・火災の原因となります。

●器具を改造しない。落下・感電・火災の原因となります。

●傾斜天井・壁面への取付けはしない。落下の原因となります。

●適合灯具以外使用しない。落下の原因となります。

(灯具の取扱説明書または、カタログにて確かめる。)

●2本吊専用ですので、1本吊はしない。落下の原因となります。

●本体の取付ピッチは、灯具本体への吊具取付ピッチと合わせる。

落下・灯具の傾きの原因となります。

●開放廊下等、風の強い所では振れ止め処理を行う。

(振れ止め処理のワイヤー、金具は別途です。)

落下の原因となります。

●この器具の設定可能高さは、約400mm～約1000mmです。

これ以外の長さでワイヤー吊りをしない。落下の原因となります。

●ワイヤーに衝撃を加えない。落下の原因となります。

●吊具に衝撃が加わった場合は、異常が無い下記ポイントについて確認する。

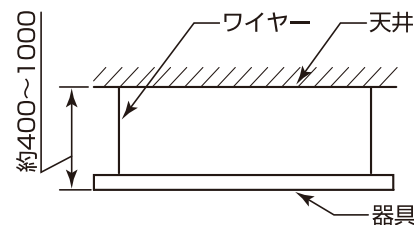
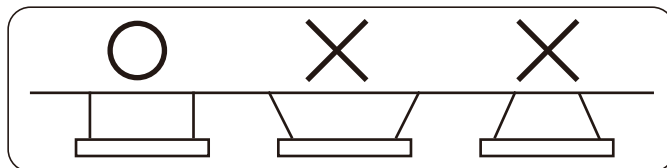
異常があるままに使用すると、落下の原因となります。

●電源線の接続後の絶縁は確実に施工。

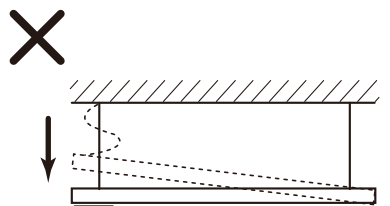
感電・火災の原因となります。

●単線とより線の直接接続(ねじり接続等)はしない。必ず専用工具で圧着すること。

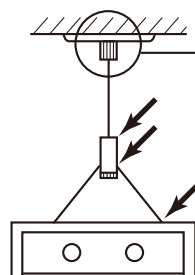
火災の原因となります。



<確認ポイント>



ワイヤーに衝撃を加えないこと。

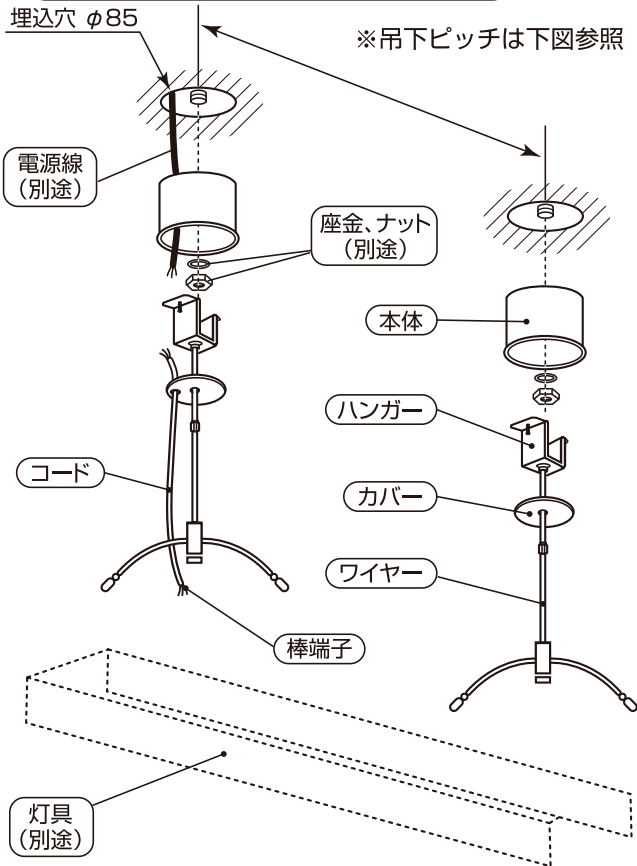


ワイヤーの素芯で破断なきこと。

⚠ 注意

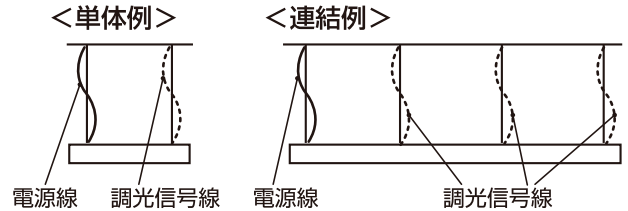
●湿気の多い場所、振動の強い場所、雨水のかかる場所、腐食性ガスの発生する場所では使用しないでください。
落下・感電・火災の原因となります。

各部のなまえと取付方法



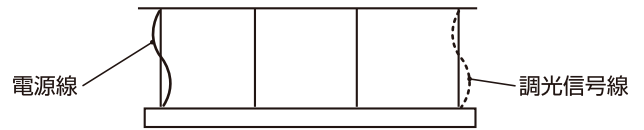
1. 取付け前の確認

- 器具質量 (FYY56020J の場合: 7.8 kg) に十分に耐えるよう、ボルト取付部の強度を確保する。
不備があると、器具落下の原因となります。
- 電源線の引込みは端で行い、調光信号線の引込みは、電源線と近接しないよう配線処理してください。



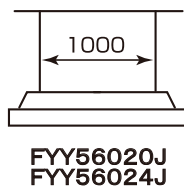
<LED 器具の連結の場合>

- 電源線付吊具は、連結電源用器具の終端側、吊具 (通電穴付) は連結信号用器具の終端側に配置されるように取付けてください。
電源線、調光信号線は連結の両端から各々引き込んでください。
連結途中からの入線はできません。
(詳細は、灯具の取扱説明書をご覧ください。)

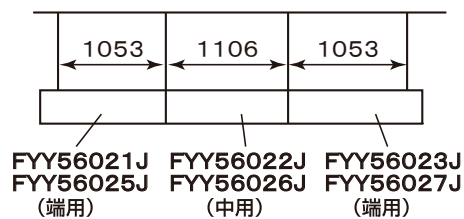


- 同梱のコードの容量は7A以下です。
- 単体、連結した場合の吊具のピッチは次のとおりです。

<単体例>

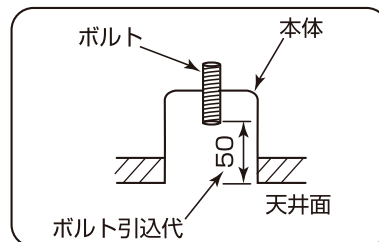


<連結例>



2. 埋込穴の開口

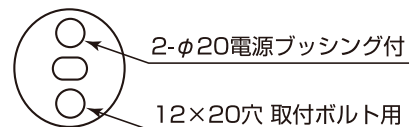
- 埋込穴、取付ボルトを右図のように用意しておく。



3. 本体の取付け

- 電源線、アース線を本体の電源穴から引き込んでおく。
- 本体をボルト (W3/8またはM10) にて確実に取付ける。
不備があると、器具落下の原因となります。

本体背面図

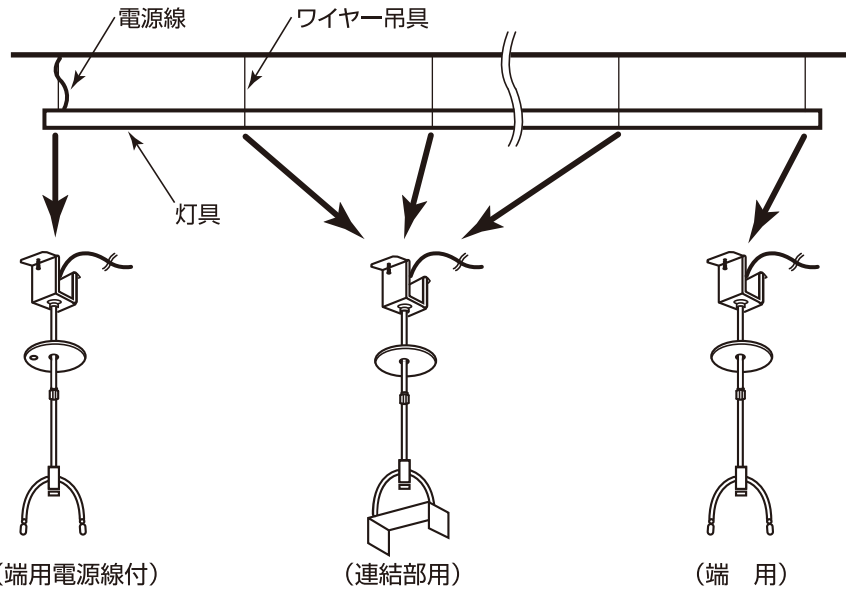


各部のなまえと取付方法 (続き)

4. ハンガーの取付け

- ハンガー固定ネジを緩めておく。
- ワイヤーを引っ張りすぎないようにしてください。
長さ調整機能が失われ、施工できなくなります。

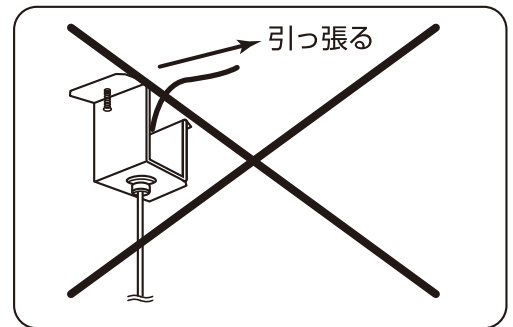
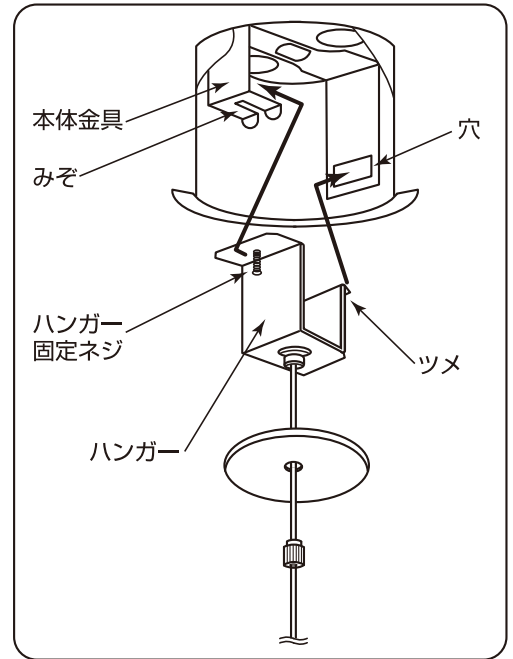
※端用電源線付、端用、連結部用のワイヤー吊具を適切にご使用ください。



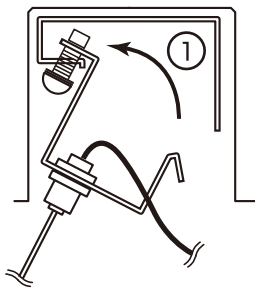
LED器具の場合
FYF80035

FYF80031(端用を使用)

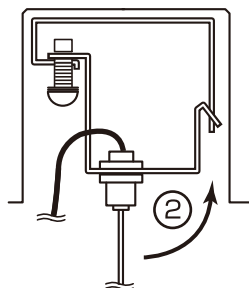
FYF80032



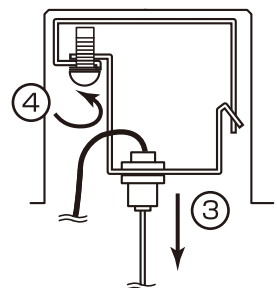
- 下図にしたがい、ハンガーを取付ける。



① 本体金具のみぞに沿って、ハンガーのネジ側を引っ掛ける。



② 本体金具の穴にハンガーのツメをカチッというまで押し込み引っ掛ける。



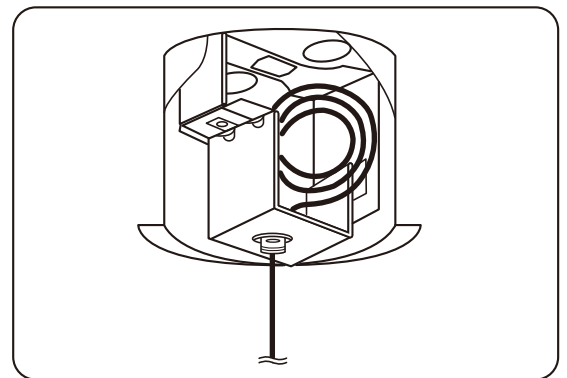
③ ハンガーを下に引きながら、④ 固定ネジを確実に締め付ける。

不備があると、器具落下の原因となります。

- 引き込み線は電源穴からまっすぐに下ろし、線カミのないようにしてください。

不備があると、感電の原因となります。

- 余分なワイヤーは右図のように、本体の中に丸めて収納してください。

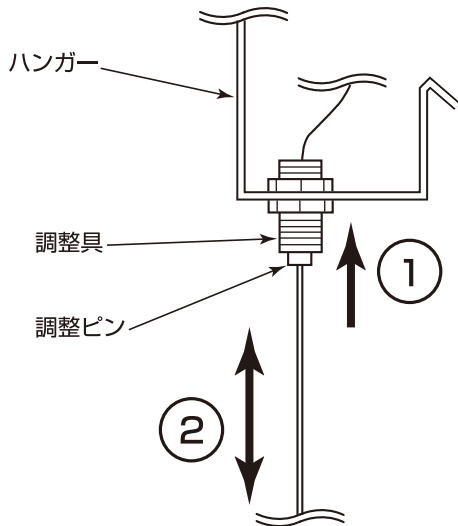


各部のなまえと取付方法 (続き)

5. ワイヤーの長さの確認

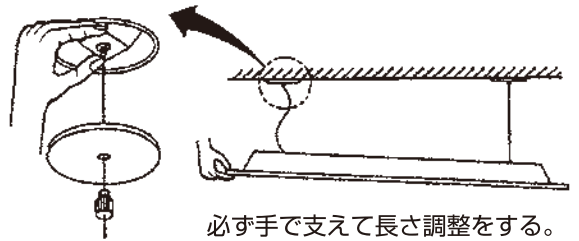
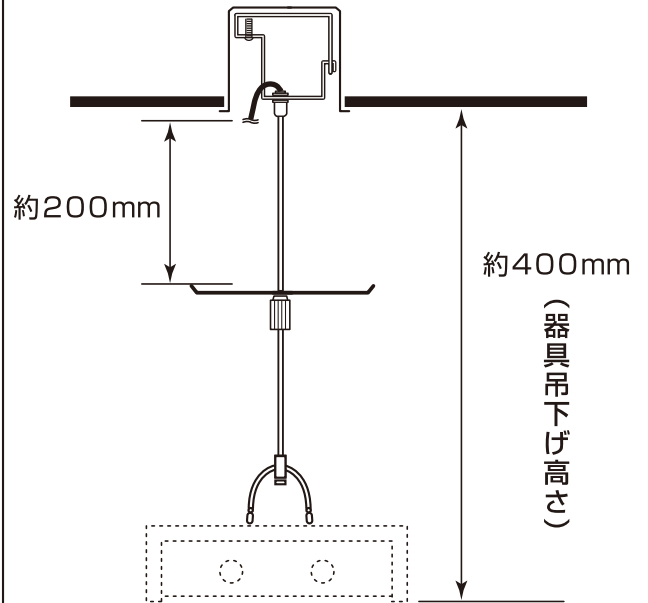
- 灯具を取付ける前に、ワイヤーを同じ長さになるよう調整してください。

調整方法



- ①調整ピンを押したまま、
 - ②ワイヤーを上下させ、調整する。
- 灯具を支えずに行うと、灯具落下の原因となります。

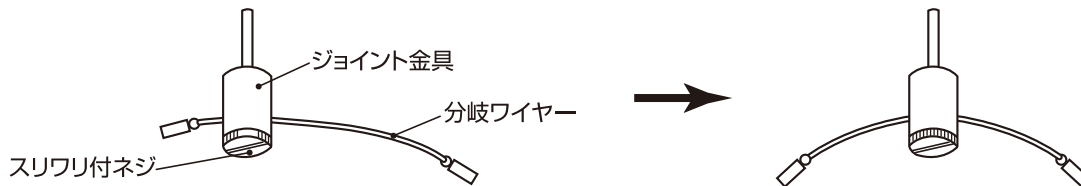
推奨取付高さ



必ず手で支えて長さ調整をする。
必ず2人作業にて行ってください。

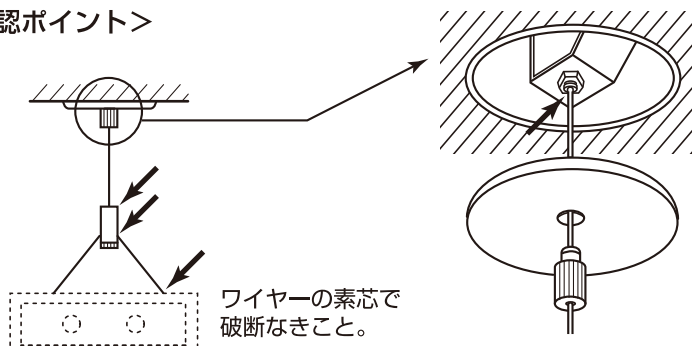
6. 灯具の取付け

- 吊具のジョイント金具のスリワリ付ネジを緩めて、分岐ワイヤーが左右同じぐらいの長さになるよう設定し、スリワリ付ネジを仮締めする。



- 吊具に灯具を固定する。(詳しくは、灯具の取扱説明書をご覧ください。)
- 連結する場合は、端から順番に取付けてください。(詳しくは、灯具の取扱説明書をご覧ください。)
- ワイヤーに衝撃を加えないでください。落下の原因となります。
- 吊具に衝撃が加わった場合は、異常が無いか下記ポイントについて確認してください。異常があるまま使用すると、落下の原因となります。

<確認ポイント>

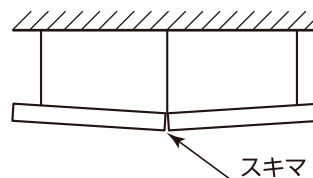
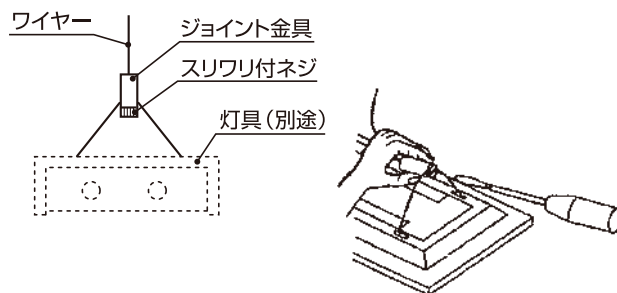


内部でワイヤーが破断している
恐れがありますので、
一度ワイヤー長さを調整し、
破断がないか確認してください。

各部のなまえと取付方法 (続き)

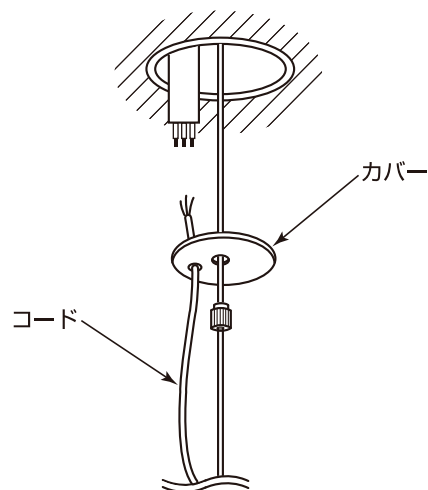
7. 吊り高さと傾きの微調整

- 吊り高さを調整してください。
(調整方法は、「5. ワイヤー長さの確認」および灯具の取扱説明書をご覧ください。)
- 吊具のジョイント金具のスリワリ付ネジを緩めて、器具を水平にする。
- 吊具のスリワリ付ネジをネジ回しにて確実に締め付ける。
取付けが不完全な場合、灯具傾きの原因となります。
- 連結部分にスキマが生じる場合には、灯具が水平となるよう吊り高さを微調整し、固定してください。
(詳しくは、灯具の取扱説明書をご覧ください。)



8. コードの接続

- 同梱されている棒端子をコードの先端にかしめる。
- 棒端子を灯具の端子台に接続する。
(詳しくは、灯具の取扱説明書をご覧ください。)
- 接続が不完全な場合、火災の原因となります。**
- コードの長さを、ワイヤーの長さに合わせて、適切な長さに切ってください。
- コードをカバーの穴に通し、コードと引込み線の絶縁処理を確実に施して接続してください。
- 接続が不完全な場合、感電・火災の原因となります。**



9. 調光信号線の接続 (LT の場合)

- 調光信号線 (別途) の長さを、ワイヤーの長さに合わせて、適切な長さに切ってください。
- 調光信号線をカバーの穴に通し、調光信号線と引込み線の絶縁処理を確実に施して接続してください。
- コードの長さを、ワイヤーの長さに合わせて、適切な長さに切ってください。
- コードをカバーの穴に通し、コードと引込み線の絶縁処理を確実に施して接続してください。

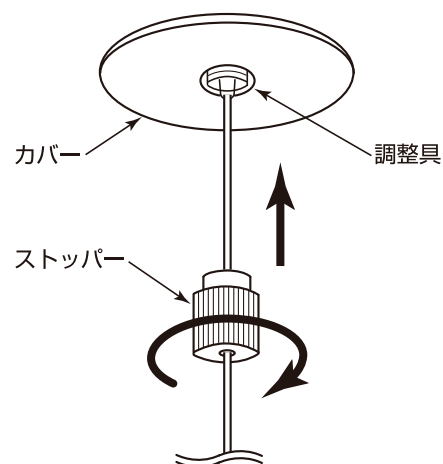
10. 電源線・アース線の接続

- 電源線・器具口出し線・アース線を接続する。
- 接続部の絶縁を確実に行う。
- D種(第3種)接地工事が必要
- 口出し線の接続は、電気設備技術基準の省令第7条、および同解釈第12条にしたがうこと。
- 口出し線の線種：ビニル絶縁電線
電源線の線径：0.75 mm² アース線の線径：0.75 mm²

警告 接続、保護が不完全な場合、感電・火災の原因となります。

11. カバーの固定

- コードを吊具本体に収納する。
- カバーを天井面に押しあて、ストッパーを調整具にねじ込み、固定する。



- ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

安全に関するご注意 **警告**

- 吊具を改造しない。落下・感電・火災の原因となります。
- 万一、煙が出たり、変な臭いがするなどの異常が発生した場合、すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼する。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
- 地震・大きな振動または衝撃が器具に加わった場合には、ワイヤー部分に異常がないか確認する。異常があるまま使用すると、落下の原因となります。

 **注意**

- ランプ交換やお手入れの際は、必ず電源を切ってください。感電の原因となります。
- 照明器具には寿命があります。^{※1}3～5年に1回は、工事店等の専門家による点検を実施していただき、不具合がありましたら適切に処置してください。放置すると、火災の原因となることがあります。

※1 照明器具の寿命は、使用条件、使用環境によって異なりますが、一般的な目安は10年です。

お手入れ  **注意** (必ず電源を切ってください。感電の原因となります。)

- 吊具の清掃について……………
 - 水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。
 - シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤でふかないでください。
 - 変色・変質、強度低下による破損の原因となります。